

マザーハウス

# たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。  
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



2022

3 月号

- 2 理事長挨拶
- 4 社会の声①
- 5 ささきみつおコーナー
- 7 育児日記
- 7 堀の中のたより
- 11 つぶやき!
- 14 社会の声②
- 19 健康相談窓口
- 20 ラブリー-DAYS
- 21 回復プログラム 実践
- 22 プリズムアート倶楽部
- 23 行事予定

♪移送・出所される方は必ずご一報ください。  
MLP（文通）に参加している方は文通相手へ  
のお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出  
人欄の住所で確認できるため）。MLPに参加し  
ていない方は事務局にご連絡ください。  
♪23ページのお知らせをご確認願います。

表紙..カブさん「おめでとう」

## 理事長挨拶

皆さん、寒さが厳しくなっていますが、如何お過ごしでしょうか？

コロナ感染症に、知り合いの方が罹ってしまいました。私にできることは神様にお祈りをするだけです。刑務所内でも感染が広がっており、情報がなかなか公表されないことが問題であると思います。工場での作業がなく、舍房での生活が続く、ストレスも多いのではないのでしょうか？そのストレスからの解放に何を望みますか。教えて頂ければ幸いです。

先日、住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金について、世帯主が受刑者である場合の手続きに関して、内閣府の担当部局から回答を頂きました。

① 本給付金の申請手続きについて、刑務所内で受刑者本人が郵送等により行うことが可能です。

② 給付金は口座振込が原則ですが、銀行口座

を持っていない受刑者の場合、現金書留による給付も可能です。

③ 基準日（令和三年十二月十日）において住民基本台帳に記録されている方で非課税である世帯、基準日において住民票が削除されている場合、基準日の翌日以降であっても除票されている住民登録を復活すれば、他の要件を満たす場合には支給対象となります。この場合、戸籍の附票を本籍地の市区町村で取って頂き、住民票を復活させることです。

④ 外国人受刑者であっても住民票があり、支給要件を満たす場合は給付対象となります。

⑤ 生活保護世帯も支給対象となります。

⑥ 給付金を受け取るための手続きは市区町村によって異なりますので、基準日時点で住民登録のある市区町村に確認して下さい。

⑦ 本人による確認書の返送や申請書の提出が困難な方は、代理人が行うことも可能です。受刑者の場合、委任状及び拘禁証明書が必ず要です。

⑧ 施設の所在地の市区町村の税務課に所得申告をして非課税の認定をして頂くことです。遡って申告可能です。その後、住民登録地に給付金の申請依頼をして下さい。

⑨ 申請期日は令和四年九月三十日までです。

受刑者の皆さん、様々なことを言う人がいますが、年金も給付金も国民の権利であり、

きちんと受給を受けるべきであると思います。自分の住民票がある自治体に手紙を書いて、確認書と申請書を送ってもらって下さい。給付対象者は必ず支給されます。日本は本人申請主義なので、受刑者の皆さんが自分で行動しなければ誰もしてくれません。これは決して恥ずべきことではなく、皆さんの権利であり、その権利を行使しているに過ぎないのです。臨時給付金を受け取ることができませんように願っています。

先日、弁護士のT先生と一緒にM刑務所へ行き、受刑者のKさんと面会してきました。彼とはG刑務所で同じ工場にいたことがあります。社会復帰後に更生保護法人に入所したのですが、事件を起こし、裁判となり、私情状況証人となりました。約一年半の刑期ですが、高齢で耳と目が悪い状態です。面会の時も、足がとても痛いと言っていました。歩くにも大変な状況にある高齢者を三階の部屋に収容させる刑務所の非人間性には憤りを感じました。自分たちが逆の立場になったらどんな思いをするのだろうか、という想像力が欠如していると思います。

色々な意見があると思いますが、まずは相手の声を聴き、それを肯定し、できるだけのことを実施することで相手が変わってくると思います。そのことが更生にも繋がると私は思います。刑務所は受刑者の声を聴こうと思いません。それは社会でも同じであり、当事者

の声を聴こうとしないのです。だから何も変わらないのだと思います。

二月二十日の夜、札幌に行き、受刑者と面会をさせて頂きました。突然の訪問で迷惑であったと思いますが、回復についてなどの話をさせて頂きました。特に複数回入所しているOさんには、依存について、あなたのために関わり、大切に思っている人たちがいることを伝えました。その後、札幌矯正管区にもお邪魔させて頂きました。



カブさん「一服」

ある受刑者から、マザーハウスの五十嵐は矯正局と保護局から嫌われていると言われました。何故なら、国賠訴訟の中で、私の妻と子供、支援者の前で「五十嵐弘志は犯罪性を有する人間である」と言われたからです。この言葉だけは絶対に許すことは出来ないし、見返してやると思っている行動してきました。刑余者の人権と言っている法務省が、組織を守るためには平気で社会復帰した人を潰すことを言う、これは絶対に変えていかなければいけないと思っています。その国の機関が人権を大切にできないのはその国の恥であり、人を大切にできていない国であると思うからです。再犯防止を実施するのであれば、一人ひとりの受刑者の人権を尊重し、反省を求めめるのではなく、悔い改めるには何が必要なのかを共に考えて行くことが必要であると思います。何故なら「反省は一人でできるが更生は一人ではできない」からです。

三月二十六日に、元刑務官の方と「刑務所で再犯防止は出来るのか」と題して対談をさせて頂きました。社会はとても厳しいです。「私は大丈夫」なんて思わないでほしいです。

先日、理事長挨拶で厳しいことを言ったら「退会します」と連絡がありました。それは私にはいいと感じています。本物だけが残り、自分のことを真剣に考えて下されば良いと思います。更生するかどうかは、その本人が決めることであり、私が決めることではなく、

辛いのはその本人だからです。マザーハウスやキリストを利用して何も変わりません。本人が自分を変えようとしなければ無に等しいと思います。

回復している人の姿を見てみると、自分の時間を人のために用いています。そこに相手のことを考えようという犯罪からの解放があるのだと思います。刑務所から来る手紙を見ているとよく分かります。すべて自分のためです。自分の都合ばかり言って来ます。その結果、回復には繋がらないのです。支援されるのは当たり前ではありません。ある受刑者から、会費等の支払いについて意見がありました。キリストの信仰に反する、活動が無に等しくなり残念である、と。これは大きな間違いです。活動を継続するには費用がかかります。だから互いに助け合い、痛みを共有するのだと思います。キリストの愛とはお互いを大切にすることです。だから互いに愛し合いなさい、赦し合いなさい、と言うのです。無料様々なことをして下さる人がいるでしょうか？自分のことばかり考えて行動するか、社会から受け入れてもらえないのだと思います。そして孤独になって行くのではないのでしょうか。

この間、間宮由美区議会議員から相談を頂きました。それは誰も関わって下さらないゴミ屋敷の処理に関することでした。聖ラウレンシオは人が嫌がる仕事をした聖人です。そ

の名前を頂いた事業部ラウレンシオのスタッフが作業をしてくれることになりました。十四日間かけて片付けをしたのですが、区議を含め、近隣の住人から「有難うございます」とお声掛けを頂きました。

人から喜ばれる作業をするということは、心に宝を積むことであると思います。聖書には「天に宝を積む」(ルカによる福音書十二章三十三〜三十四節)とあります。私は「あなたの富のあるところにあなたの心もある」と感じます。そして、問題は、わたしたちが何を宝としているか、何を大切に生きていくか、と問われていることではないでしょうか。自分のことも大切ですが、目の前の人を大切にすることです。視点を変えるとよく見えてきます。

私は受刑中、多くの聖職者やキリストの兄弟姉妹と文通をしてきました。その文通を通して多くのことを学びました。厳しいことを言われたことも多々あります。その中に真の愛を感じました。また、傷ついたこともありましたが。それは手紙を書いたのに返事が来なかった時でした。でもこれは自分からの目線であると感じました。社会で生活するには仕事があります。他にも様々な用事があります。その中で自分の時間を用いて手紙を書くことは大変なことであると思います。だからこそ真価が問われるのだと思います。時間がなければ「はがき」一枚出して現状を伝え

ることも必要であると思います。正直、私自身、手紙に対して返事が書けていないのに何を言っているのかとお叱りを受けると思いますが、文通は双方にとって大切な学びの時間であると思います。そして受刑者にとっては回復に繋がるものであると思います。ただし、正直な心での文通に意味があると思います。綺麗事は意味がないのです。

キリスト教では四旬節(復活祭の前の、悔い改めの時期)を迎えています。回心とは何でしょうか? 視点を変えることであると教えて頂きました。自分の視点からではなく、キリストの視点が重要ではないでしょうか。例えば親、妻、子ども、被害者、刑務官の視点から自分を見ると、色々な気づきがあると思います。私自身も視点を変えることで大きな学びになっています。

ある人たちが、関わることもしないでマザーハウスのことを批判しています。そのようなことをする人たちがキリスト教会にいます。言う前に関わることが大切ではないでしょうか。この人たちの信仰はどこにあるのでしょうか? 神様はしっかりと関わって下さる。だから愛と赦しがあると思います。私は聖書をしっかりと読み、キリストに生きていきたいし、キリストの愛を実践して行きたいです。そこに艱難辛苦があるのが乗り越えて行く力を神様が与えて下さると確信しています。

## 社会の声

### 職員研修での講演の感想

■昨年末に実施した、千代田区保健福祉部職員研修「再犯防止」での、再犯防止担当の方の感想をご紹介します。

☆

この度は研修講師を引き受けて頂き本当にありがとうございました。

本研修は、「再犯防止を推進する観点から、刑務所の現状及び罪を犯した当事者の視点に立ったサービス提供の考え方を学び、以て職員としての資質向上に寄与する」という目的のもと実施しました。再犯防止担当の私としては、とにかく保健福祉部の職員に再犯防止の実態を知ってもらう事。また、当事者の話を伺って再犯防止が他人事ではなく、我が事として感じてもらえればと考えておりました。

石塚先生の講義では、「再犯の防止等の推進に関する法律」がどのような経緯で成り立ったのかをご説明いただきました。行政の職員にとって法律が出来た経緯を知っていることはとても大切なことだと思っております。

また、刑務所や少年院の収容状況や犯罪の認知件数などの現状についてご説明頂いたあとに再犯防止がいかに大切かを教えて頂きました。再犯防止を地域で支えていくことの大切さ、山の保水力を例にして地域の力を分かり易く教えて頂きました。事後のアンケートからも職員の多くが再犯を防止するために社会全体で取り組む必要性を強く感じたことがうかがえました。

五十嵐理事長の講演では、当事者の方の目線で刑務所での生活、出所後の様々な出来事についてお話いただきました。お話を伺った多くの職員が目からうろこだったと思います。皆が知らないびっくりする話ばかりだったと思います。

研修後のアンケートで「出所した人に対して差別的な視線で見えてしまいがちな意識を変えなければいけない」、「受け入れる側の一人ひとりが偏見をなくしていくことが一番大切」、「犯罪をした人の立場に立って考えることの必要性」といった感想が多く寄せられました。私としては、罪を犯した人はモンスターではなく普通の人であり、福祉を担う職員と

して寄り添っていく事の大切さに気付けたこと。この意識の改革、変革がとても大切なことで、本研修を実施した意義は大きいと感じています。

今回の研修で犯罪学の専門家と刑務所に入所していた当事者の方から様々にお話を伺えたことは、区職員にとっても貴重な重要な体験となったと思います。

研修後アンケートで「千代田区再犯防止推進計画」を知らないと回答した人が32名で受講者全体の64%であったことにショックを受けるとともに自身の力不足、啓発不足を感じました。今後も様々な機会を捉えて再犯防止の推進に努めていきたいと思えます。



藏符さん

「父である神と十字架のイエス  
（「聖書と典礼」表紙絵より）」

## ささきみつお コーナー

### 賞を得るように走る

#### 一・東京オリンピック開催

一年延期された東京オリンピックが、様々な批判と困難を乗り越えて、昨年ついに開催された。

日本は国際社会に対して開催国としての責任を立派に果たし、日本人選手たちの目覚ましい活躍により、米国、中国に次ぐ、第三位のメダル獲得国になった。日本勢の中では、十代の世代、女性、自衛官のアスリートたちの活躍が際立った。

卓球混合ダブルスの水谷隼・伊藤美誠チームが、世界最強の中国チームを打ち破り、金メダルを獲得した試合が、個人的には一番印象に残った。

特に、試合後に大量の誹謗中傷脅迫メールが水谷選手に送られているが、「ボクはそんな脅しは一ミリも怖くない」と言い切った。日本人として真に尊敬に値する人物である。

そのベースには、幼少の頃から国内外の多くの試合に出場し、様々な困難を克服して勝ち抜いてきた履歴がある。

足を骨折したり、外国選手による不正ラバー使用問題に抗議して一年半も国際試合出場を拒否したこともある。

また、「実は、この一年、球が見えないんです」。五年も前から目が見えにくくなってきたが、試合中に照明その他の問題で球がまったく視界から消えてしまう瞬間がある。それでは試合にならない。やむを得ず、サングラスを着用しているが、それでも十分ではない。

にも拘わらず、東京オリンピックでゴールドメダリストとして輝いた。

水谷選手は、「どうやったら卓球が強くなりますか?」という質問に対して、「一万時間練習してから質問しに来てください」と回答して話題になっている。

要するに、チャンピオンになる近道はないのだ。毎日の地道な訓練の積み重ねが、勝利を生み出すのである。

## 二・賞を得るように走る

ある意味で人生は競争である。生まれてから死ぬまで続くロングレースである。

しかし、時が経てば金メダルは色あせてくる。チャンピオンも年老いて忘れられていく。それらは、「朽ちる冠」である。

クリスチャンにとっても競争がある。この世の競争ではなく、神の国の競争である。人との競争ではなく、自分との競争である。自分に与えられた神の使命をどこまで全うするか競争である。

聖書には、「賞を得るように走りなさい」と書かれている。神の賞与は、永遠に「朽ちない義の冠」である。横道に逸れないように、後戻りしないように、目標を目指して前に向かって全力で走り続けるのである。

「あなたがたも賞を得るように走りなさい。しかし、すべて競技をする者は、何事にも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである」(コリント人への第一の手紙 九章二十四〜二十五節)

「後ろのものを忘れ、前のものに向かって、目標を目指して走り、キリスト・イエスにお

いて上に召してくださる神の賞与を得ようと努めているのである」(ピリピ人への手紙 三章十三〜十四節)

「わたしは戦いを立派に戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守り通した。今や、『義の冠』が私を待っているばかりである」(テモテへの第二の手紙 四章七〜八節)



一兵さん

「仲良しとうがらし」

五十嵐亜利沙（妻）による

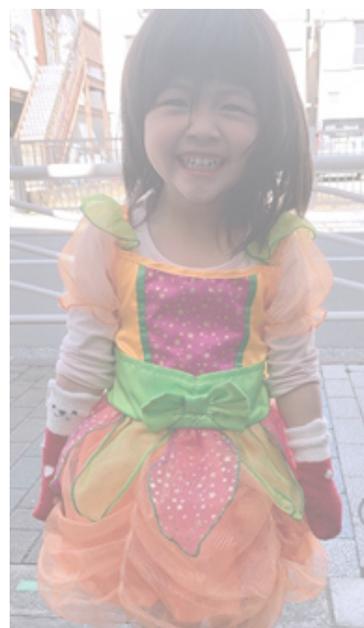
## 育児日記

もうすぐ三年生になる長男A君ですが、一人で留守番をしていて私の帰りが遅くなる、泣きながら電話がかかってきて、泣きながら出迎えてくれます。

長女のKちゃんは、幼稚園の歌や踊りを一生懸命に踊っていたり、できないことも練習をしたり、年長さんがやっていた誕生日会の司会もしっかりできていたり、進級に向けて成長しています。

次女のRちゃんは、四歳になりましたが、まだ赤ちゃん言葉でちゅ（笑）。自宅から幼稚園まで徒歩で十五分ぐらいかかるのですが、全力疾走するので、私も三女のMちゃんをバギーに乗せて追いかけるのですが、ますます喜んでまた元気に走って行ってしまおうので、私は幼稚園に着く頃にはいつも息切れをしています。

Mちゃんには、「愛している、大好き、嬉しい、幸せ、ありがとう」と常に話しかけて、ポジティブ思考を植え付けています（笑）。



## 塀の中のたより

受刑者からこんなお手紙が届いています

### 真剣に内観に 取り組むようになったきっかけ

〇刑 Kさん

私が少年院で習った「内観」というものは、自分自身の心理状態やその動きを観察するも

ので、例えば、幼少から六歳まで、母に「してもらった事」「して返した事」「迷惑を掛けた事」を瞑想します。これを一日瞑想し考えるのです。次の日には、小学一年生から三年生までを同じように瞑想し、また次の日には小学四年生から六年生まで、次の日には中学一年生から三年生まで、…と瞑想するのです。この内観瞑想を教えて頂いたのは、〇県の特別少年院でのことです。私は十九歳で入所し、三年ほど居たのですが、いじめられて辛い日々、脱走計画までして荒れ狂っていた日々の生活…そんな私を見かねて内観瞑想を教えて下さり、ずっと退院するまで単独室内観瞑想の訓練の日々でした。

最初の三か月は何も考えられなくて、ただ一日をぼーっと過ごし…六か月が経った頃、先生が息抜きにと考えて下さったのが、養豚作業でした。子豚が六匹生まれて、子豚や母豚の世話を三か月くらいしました。

ある日、子豚が夕方、小舎から脱走して七時まで探しまくって、五匹は見つけましたが、どうしても一匹が見つからず、翌朝から探すことになりました。まず、豚たちにエサをあげるため、昨夕に仕込みをしていた釜から子豚や母豚にエサを与え、小舎が空いているうちに罅（ねぐら）を掃除しようと、井戸から水を汲もうと下を覗き込んだら、昨日見つけることが出来なかった子豚一匹を発見しまし

た。先生に私の足を持ってもらって、暗い井戸の中に入って手を伸ばしました。

再び先生に私の足を持って井戸からあげてもらって、ゴザの上に子豚を寝かせました。小舎を掃除し終わって子豚の元に行くと、目から涙が出て、私も先生も泣きました。昨日すぐ井戸を見ていたら、助かっていたかもしれない小さな命…私は手を十字に切って、ごめん…ごめん…と手を合わせ、その日を境に真剣に内観瞑想に取り組むようになりました。

## 強い意志を持つ

N刑 Fさん

私が手紙の中で、「残りの人生を少しでも役に立てるようになりたい」と書いたことに對し、「出所してから普通の生活を送るまで、決して簡単な道のリではない」と書かれました。私も本当にそう思っています。私の周りの受刑者の多くは、出所してからを軽くみています。「何とかなる」的な考え、「出所後は数か月ゆっくりする」という人、「すぐに〇〇をやっついこうと思う」という人など…私はこれらを聞いては、自分のことを不安に感じています。

満期が六十代半ばなので、仕事を見つけないが大変ですし、それでも日々を生きていかなくてはなりません。自分が捕まるまで何か特別なことをしてきたわけでもなく、財産があるわけでもありません。人付き合いが得意でなかった私は、ほとんど一人で過ごしていましたから、助けてくれる友人も知人もいません。だから今、私は一人なのです。今まで生きてきた生き方が、この今の結果になっています。だからこそ、出所した後の自分の人生が不安でしかありません。

怒られるのかもしれませんが、今の私の考えを書きます。私は二度と犯罪はしません。なぜこのように言い切れるのか？と全ての方に思われると思います。しかし私は、やらなと考えるとやりません。私の考えはこうです。どんなに教育を受けても、同じことをする人は犯罪をすると思います。しかし私は長く刑務所にいて、自分の人生の三分の一くらい損をしている人生を、自分のせいで歩んでいます。高齢で出所し、これ以上自分の人生を棒に振ることができるのか？

それからもう一つ、例えばタバコ…私の元妻は、妊娠した際に、赤ちゃんのためにタバコをやめました。それを見て私もやめようと考え、買ってあったタバコを全部吸った二か月後、気合のみでやめました。最初の三か月は辛かったです。自分の意志のみでやり切りました。しかしタバコをやめられない人の

多くは、色々な物に頼り、医者に行く人もいます。その中でやめ切った人はどれだけののでしょうか？何も頼ってはダメと言いたいではなく、結局は自分の強い意志が必要だということですよ。

私はとても多くの方々に迷惑を掛けてしまいました。今でも苦しんでいるでしょうし、これからも同じように苦しんでいくと思っています。私は残りの人生を、このままで終わらせたくはありません。本当は被害者やその周りの方々に謝ってまわりたいのですが、被害者の方々が嫌なことを思い出し、苦しみが大きくなるだけだと思うので、私のできるところといえは、人様に迷惑を掛けずにしっかりと生きていくことです。そのためには、お手に紙にありました、「まず、生活（社会環境）と心身を整え…」が重要になってくると思います。

だからまずは自分の帰る場所をしっかり決めたいと考えています。それに唯一の親族の姉とちゃんと会って謝りたい。できれば姉と二人で助け合って生きていけたらと思っています。



きりさん

## 刑務所の中は守られている

N刑 Kさん

刑終了まで半年を切りました。同囚からは羨ましがられたりもしますし、正直心が浮つく時もあるのですが、あくまでも刑期は法で決められたものに過ぎず、私が犯した罪に終わりはありません。なぜなら、被害者とそのご家族は死ぬまで本件の傷が完全に消えることがないからです。

刑務所の中にいる間、私たちは社会からの差別や苦勞から守られているのだと感じます。ここには罪を犯した人しかおりませんので、ある意味、皆共感できるところがあるように思えますし、自らの犯罪を隠したり気にしたりすることがないように思います。ですので、自分が犯罪者という事実を意識していないと忘れてしまうのかも知れません。情報が少ないということも、裏を返せば、社会の犯罪者に対する感情などを目にしなくていいということなのではないでしょうか。被害者が私を攻撃しようとしても、当然何もできません。

だからこそ私は、社会に出てから差別や厳しい目で見られるのは当然のことだと覚悟しています。それでも、被害者の苦しみには遠く及ばないでしょう。私は死ぬまで被害者の

ことを忘れないようにすると決意しました。その決意が崩れた時こそ、再犯へと進むであろうと感じるからです。

恥ずかしい話ですが、たよりで被害者の状況を知るまでは、被害者のことなど意識しておりませんでしたし、今のよう to 考えることもなく、ただ流されるまま過ごし、出所して「もう終わった」と事件のことなど忘れてしまっていたと思います。

## 周りに流されず自分で考える

(同じく) N刑 Kさん

十月号の『BIBLE ∞ LIFE』の表紙を見て、私の頭に真っ先に浮かんだのは、「マスコミカルト」という言葉です。特にここ数年は、「ネットカルト」も流行しており、酷い社会へ突き進んでいるようにしか思えません。

マスメディアの流す情報だけを重視し、受け入れ、自ら考えようとしなない、そんなように日々感じます。誰もかれもがSNSで他人の評価を求め、マスコミが流した流行に乗り、追いかける様は、まさしくカルトそのものではないでしょうか。皆、自分の頭で物考えないようになっていっているように思います。

皆が多様性と騒いでおりますが、現実には真逆ではないでしょうか。例えば、今、男女平等と言われていますが、女性に対して、「子を産み育てるのが女性だ」などと言えればたちまち攻撃されるでしょう。しかしよく考えると、そのような意見もまた多様性に含まれるはずで。しかし違うようです。実は多様性の時代と言いつつも、大きな流れに少しでも逆らったりすると、攻撃されたり弾かれてしまう。

また、自分の好きなことでお金を稼ぐ、やりたいことを見つける、そういったことをした人だけが勝者、というような流れも見えます。では、自分の望まない仕事をしている人は負けなのでしょうか。他人に注目されないことは、ダメなことなのでしょうか。私はそう思いません。皆が好きなことだけを仕事にするようになったら、誰がその社会の根本を支えるのでしょうか。人がやりたがらないようなキツイ仕事に就く人がいるからこそ、便利で安全な社会があるわけで、わざわざ一億総活躍社会などと言わなくとも総活躍している、できていると思うのです。

昨日頂いた資料を見ながら、「受刑者とともに捧げるミサ」に所内からお祈りで参加させて頂きました。自殺者、特に子どももの自殺が多いことを本当に悲しく感じます。少しでも、そういった人たちが自分の価値に気付き、前向きに生きていくことができるように常に

思っております。子どもや高齢者が幸せにならない社会は末期ではないでしょうか。私はいつもそう考えます。

## 長年の無理がたたって

リンリンさん

私は元々、規範意識が薄く、怠け者の自己中心的で自由気ままに言いたいことを言う、でも外面が良いだけの腹黒い人間であった。人と関わることが苦痛で人と長く居られず、集団行動も苦手なので一人でいるのが好きだった。そんな私でも、社会では色々なことから逃げたり避けたりしながら、何とか生きていたが、そういう人間がまともな人生を送れるはずがなく、二十代後半で事件を起こし、もう三十年近くも拘束されている。無期懲役だ。

今までの受刑生活で懲罰は一度もなく、真面目に生活してきた。それは償いのためであり、しかし一日でも早く出所したいからというのが本音かもしれない。だから刑務所で規則正しい生活をして、模範的な受刑者になろう、と入所時に誓った。そんなことは無理とも思ったが、努力と忍耐を重ね今までやってきた。相当に無理はしてきたし、もうどうに

かなりそうになったことも、数え切れない。そんな時は、長い付き合いの職員さんたちが助けてくれた。信用してもらえていて何かと気に掛けてもらえるのも嬉しいことだ。

そんな私が、最近人と関わるのがとても苦痛になり、整列時や食席などで人に挟まれると叫び出したくなり、開放独居で生活しているが、洗面所で人が隣にいることや廊下で人と会うのも苦痛になり、ずっと健康だったのに体調が悪くなり、今までどんなことがあっても休養を拒んでいたのに初めて自分から「休ませて下さい」と言ってしまった。薬を嫌っていたのに、「薬でへ口へ口になってもいいから薬を下さい」とそんなことも言うてしまい、安定剤や睡眠薬、また血圧も高くなってしまったので降下剤も飲み、それでも血圧は下がらないという最悪の体調が続いていて、それでも仕事には出ている。

食席を一人の席にしてほしいとか、鍵付きの独居に入れてほしいと訴えても、今までの私を見てきている職員さんはどこか楽観視していて、そのうちいつものように立ち直るだろうと思われる気がして、心配はしてくれているが変えてくれる気配はない。私は一類なのだが、一類をそんな扱いにするわけにはいかないという気配も感じる。分類課にいる元担当さんに、今のまま続けて行けば仮釈放も上手くいく、と言われた。

一類を守りたい。衛生係という好きな仕事も続けたい。でももう無理をして生きていくことに疲れてしまった。ダメ人間は無理をしなければ真面目にできない。それを三十年近くやってきたことは凄いのか？私なら大丈夫だと思われている。本当は違うのに、本当にダメなのに限界なのに。この先、今までのようにやっていく自信もなくなってきて、もう自分でもどうして良いのか分からない。これも自分の犯した大罪への罰なのだろうか？

このまま崩れて行くのは簡単だし、楽だろうと思う。でも今まで築き上げたものが全て水の泡になってしまふ。それに耐えられる自信もない。どうしたら良いのか分からないけれど、とりあえず今は一日一日を一生懸命生きていくしかない。作業中に涙が出てきても、人に挟まれて叫びたくなくても、耐えるしかない。

## 目の前にある現実を受け入れる

福の神さん

私は金属工場で計算係として従事していましたが、三か月ほど前、突然「ケンカ事案」ということで調査になりました。処遇で「誰々を脅したりしていないか？」など、いくつか

の質問を受けましたが、どれも身に覚えのないものでした。

その後、調べが進み、その相手が、あることが原因で私のことを逆恨みし、あたかも事実のようにでっちあげたことだった、と分かりました。

その後、三週間ほど調査期間が過ぎた日に、「今回の件は懲罰審査会にかかることなく不問とする」と告知がありました。これで私の疑いは晴れ、調査解除となり、やっと工場へ戻れると思いましたが、その喜びも束の間で、話には続きがあり、「バッジや無事故には影響はないが、工場は変わるようになるぞ」と言われ大変ショックを受けました。

そもそも私をはめた相手とはまともに話すらしたことがなく、今回の件でも何の非もない私になぜ工場を変わらなければならぬのか：これには納得がいかず、色々と言ってはみましたが、そんなことで処遇の決定が覆ることはなく、やるかたない思いのまま別の工場へ配役となりました。

この時、とても心残りだったのが、仲の良かった同囚たちに別れを告げることができなかったことです。これは今でも残念に思っています。

最近読んだ本の中にこんな一節がありました。「困難や逆境は、自分を磨き大きくするために天から送られてきた課題であると思え

ばよい」と。私は今回のことにも少し前向きな気持ちになることができました。

それから月日が経ち、今ではある方の「どんな所に置かれても、花を咲かせる心を持ち続けよう」という言葉を胸に、新しい工場で頑張っています。



「一兵さん「潮の匂い」」

「塀の中のたより」のポリウム少なめ版です

つぶやき！

人生の大半は「日常」で占められています。人生を楽しむということは、日常を楽しむということ。だから、好きなことで日常を埋め尽くしてみませんか。だって、「日常こそが人生」なんだから！

(風心さん)

☆

相手をゆるすことは、実は相手のためではないと思います。自分の幸せのために、憎しみや悲しみを手放す。つまり、誰のためでもなく自分のために相手をゆるすんです。そう考えると、とても気持ちが楽になりませんか？

(一兵さん)

☆

こちらでは、十一月の少し遅い運動会が終わったところです。私はここに入所して十七回目の運動会になり、体育委員をやって三年目の運動会になるのですが、初めて優勝を経験させて頂きました。体育委員は係の仕事だけをやるのではなく、人間関係をまとめたりする役割もあり、面倒なことが多いので、誰もやりたがりません。私は今回最後の体育委員にしようとして決めて運動会に臨みました。すべての競技が終了して結果発表が始まり、私のある工場が優勝したことが分かった時、嬉しすぎて少し涙ぐんでしまいました。優勝旗を受け取り、工場に戻って皆の前で体育委員の締め挨拶をした後、皆から「体育委員お疲れ様！」の胴上げをしてもらいました。

あとで人から教えてもらって分かったんですけど、私が今いる工場は今まで優勝したことがなかったそうです。二位との差はたった二点で、最後までハラハラドキドキの展開でした。体育委員の任期は今年の四月までです。その後はまた新たなことに挑戦するために、「放送委員」になってみようと思います。

(O刑 Mさん)

☆

今日、手元に『百万人の福音』等が届き、心より感謝しています。その中に誕生日カー

ドが入っていました。カードを手にした私の目から涙が溢れ出てしまい、独居で良かったと思いつつ、感謝で胸がいっぱいになりました。人に「おめでとう」なんて言われるのは、毎年マザーハウスから送られてくるカードだけです。親も兄弟もいない私ですが、また子どもの頃から友もおらず、いつも一人だった私にこのようなカードを送って下さり、本当に皆さんがいての私のように思います。本当に有難うございます。人に感謝をする心が持てて、また聖書を私に与えて下さり、多くの喜び、多くの優しさ、思いやりを教えてください、有難うございます。

全てのこと「有難う」と言えるように、私自身、これまで以上に希望を持ち、どんな苦難も耐え、その先の希望があることを少しでもいいので同囚に言えるようになりたいと思います。

(M刑 Nさん)

☆

いつも本や資料等を送って頂き有難うございます。社会復帰に向け、自分なりに考え、振り所に行っています。そしてちょっとずつ自分自身を整えられたらと思っています。初めてお手紙を頂いた時、私に対して、「自分が何故、今そこにいるのか?どうしてなのか?

自分と徹底的に向き合ってください。そうすれば自分と出会い、回復の道を歩むことができると思っています。また、人との触れ合いの中で、闇から光へ移ることができると思っています。自分を変えることができるのは自分です」と記されていたので、私なりに自分と向き合っています。

最初はただ何となくで始めたところ、その孤独な時間が教えてくれた自分自身の脆(もろ)さ。弱い自分と向き合うことは、本当の自分らしさを知ることなのかも知れません。また、自分らしさを知ること、ニュートラル(中立)の心も手に入れます。少しずつ一歩前へ踏み出し、「強い人」だからではなく、「弱さを受けとめ」自分らしさを大切にできる術を身につけられるようになりたいと思っています。それから、私が「わたし」であるための大切なものを探している最中です。

(F刑 Mさん)

☆

今、私たちは記録会に向けて練習の日々です。記録会とは、所内で行われる運動会の代わりのもので、私は大縄跳びに参加します。記録会といっても、各工場が運動の時間に競技をして、そのタイムなどで競うものです。

八人で二分間跳び、途中で引っ掛かっても続け、その合計数で順位が決まります。

正直、年齢も四十を超えていますし、今回は参加しないで見ていただけにしようとも考えましたが、自分ができることは出所まで全力でやろう、と決めていたので、結局参加しました。皆で毎日練習してきたおかげで、二分で二百回以上跳べるようになり、本番に向けて順調というところです。

(N刑 Kさん)

☆

尊い人の命を奪った小生に、生きる資格はあるのか、そう自問すること度々でございます。確たる答えに辿り着けず、悶々とも致しますが、今は信仰のみに生かされているのだ、との所存でございます。

ここしばらく腰を痛め、コルセットを使いつつも、工場作業や日常生活に支障を来す寸前のところで暮らしておりますが、その辛い痛みも生きておればこそのものであると覚えます時、「生きているのだ」「生かされているのだ」と実感致しております。無期懲役受刑者として、一日一日を大切に生きてゆかねばならぬのだ、と改めて肝に銘じる次第でございます。

(Y刑 Yさん)

☆

O刑では現在、炊場で何か問題があったらしく、保健所の指示に従い、自所での炊場を止めています。食事は非常食となり、レトルトカレーやごはん(五目御飯、中華丼など)、乾パン、カロリーメイトなどが出ています。近日、朝はパン、昼と夕はお弁当になる予定です。一週間くらいの予定で、できるだけ早く自所での炊場を再開することです。

このようなときは、本当に人間性が出るものだと改めて思いました。工場担当の職員さんが、事情を説明し、上述のような状況なので、少しの間辛抱してほしい、皆の理解と協力をお願いしたい、と述べられたのですが、不平不満や文句を言う者もいました。ここぞとばかりに官の悪口を言っているのです。一方で、まあこんなこともあるさ、と笑って済ます者や、日頃の食事を改めて感謝する者、本当に様々です。私は日々の食事の有難さを改めて実感致しました。

(O刑 Nさん)

☆

希望を持つと欲が出てきて、欲を満たしたくなり、それを失くしたくないのですよ

ね。いつそ希望を捨てて無になれば楽になるのかも知れないと思いました。私の大好きなご当地キャラクターの「ふなっしー」が、「失う覚悟さえあれば悩みは解決」という言葉を言っていて、その通りだないつも思っていました。失う覚悟がずつと持てず悩み続けていました。

今こそ、この言葉を実行してみようか、そうすれば楽になれる、と思うのですが…社会復帰を諦める(無期なので)ことも頭をよぎっています。

(リンリンさん)



丁拘 Tさん

☆

某刑で受けた技能検定で優秀賞を二枚頂いた。家具手加工はともかく、左官でとれるなんて想像もしていなくて、そもそも訓練を修了して十か月、唐突のことに驚きました。副賞のないことを残念に思ってしまった私は浅ましいのだろうか。

(宮崎のお米さん)

☆

新しい工場に移ってしばらく経ってから、ある受刑者から、「あとのくらいなん？長いんか？」と聞かれたので、「来年の〇月ぐらいには出れるかなあって考えています」と答えました。

その流れで、私も「長いんですか？」と聞きました。すると、「そんなん人に聞くもんじゃないでー！」とブチギレられました。えっ!?

(N刑 Yさん)

☆

先週、釈前へと移りました。平日は夕点検

後から、休日は朝からテレビが見られますが、夜九時で就寝なのは同じですね。ただ、やる事が多くて、小説や雑誌をあまり読めないのは意外でした。釈前にいる人たちは皆、「仮釈放が短すぎる」「刑務所なんて意味ねー」と不満ばかり言っています。食事が運ばれてきても「おかずがクソ」などと言っています。なら食べなさいいいのに。私は、こういった刑務所生活で何も気づけず変われなかった人たちとは関わりたくないし、話したいとも思いません。残りの二週間、時間を無駄遣いしたくないのです。ドアには鍵がないので自由に出入りできますし、談話スペースでソファに座りながら会話することもできますが、私は食事、掃除、入浴以外は部屋から出ず、ドアも閉めています。談話スペースに呼ばれたりしましたが、はっきりと断りました。

外部から教育の先生が来て、プリントを一緒に読みましようと言われ、先生に合わせながら声を出すべきなのに、周りはまさかのマイペース。さっさと速く読んで真っ先に黙る人もいます。こういった行為は失礼ではないでしょうか。プリントを集めるにしても、先生が持ち帰るわけではないのに、終わった瞬間に隣の机にパスをする人もいます。本当に失礼です。ここまで来て受刑者同士で揉めたくないので、私は何も言いません。無視です。一対一で講義を受けられたら幸せだなあ。

(N刑 Yさん)

## 社会の声

### 学生の感想

■ 昨年十二月の日本歯科大学での特別講義に寄せられた学生の感想をご紹介します。

☆

五十嵐さんのお話を聞いてとても心に響き、少し考え方が変わりました。

まずは、最初に抱いた感情は「なんの罪を犯したのだろう」と純粋に思いました。犯した罪を聞いた時は正直、「やばいな」と思いました。けどこれはきつとみんなが思うことだと思います。しかし、そこから刑務所での生活などの話を聞き、どれだけ大変か、とても感じました。五十嵐さんは受刑者に対して抱く皆の感情を変えたいのだということがよ

く伝わりました。二十年間も刑務所で生活し、罪を償い、更生したのだと思いました。しかし、犯した罪の重さは十分に理解し、反省しているのが伝わりました。出所後、結婚し、子供もいるとのことで、改めて、心が引き締まったのだと思います。

自分自身、受刑者と聞いた時、見方が変わることは不思議なことではないと思います。しかし、そこですべてを決めてしまうのではなく、刑務所に入り、更生した人もいろいろ考えを持てるようになりました。

わざわざ講義していただきありがとうございます。貴重な体験になりました。

☆

刑務所の役割として、罪を犯した人間を更生させるという役割があり、厳しく教える事は間違いないのですが、倒れた場合や緊急を要する場合は、いちいち許可をとるようなことをして亡くなってしまったら、法で裁けないとしても罪は完全に刑務所側にあるとは感じました。正直、刑務所だといえども医療形態は平等にあると思っていました。少しがっかりした所があります。

人種差別や男尊女卑に関しては平等にしましょうと言っているのに、まだまだ知らない

差別があると感じました。これからの医療は平等であるべきだと感じました。

☆

日本の受刑者の再犯率が高いという事に驚きました。また何故犯罪をしてしまうかについての原因となる背景を根本から解決しない限り、犯罪を繰り返してしまうというお言葉に納得がいきました。

私たちは弱い生き物なので絶対に悪いことをしないということは不可能だから、社会や周りに助けを求めて支え合って生きていかなければならないと感じました。

☆

まずは、とにかく楽しかったですし、面白かったです。

お話を聞く前は、どんな風に生きているのかなくらいにしか思っていなかったのですが、どのようによろしく考え、どのようによろしく、その後で得ることができたありのままの幸せの形をお話してくださって、少し非現実的な伝記を読んでいる気分になっているような感じで楽しかったです。

そもそも刑務所の暮らしを知らなかったので、運動会が行われていることや、仕事とは呼べないものの小さな仕事をしていることや、許可を得ないと自由に動きが取れなかったことや、二十四時間ずっと監視されていることに驚きました。特に、運動会で倒れてしまった患者さんに対して、四十分後にやっと救急車が来るという件については深く考えさせられました。また、いまも刑務所での暮らしが習慣化していて、御手洗や入浴の際にも、奥様に許可を得てしまったり、コーヒータを取りに行くことも分からなかったりと聞いて驚きました。

また、五十嵐さんは刑務所で暮らしていたようには思えなかったのですが、それは出刑後、自身の行いの反省を生かして、ルールを決めて守り続けているからと知り、これは誰とかわけなく、人間として尊敬しました。こども、みなさんは、刑務所を出た人間、それとも社会で生きている人間として見てくれますか、と問いかけられて複雑な気持ちになりました。

もし私が、この講義を聞いていなかったら、白い目で見てしまったかもしれないです。でも私は運良くこの講義を聞くことができて、社会復帰に苦しんでいた、誰かを傷つけたいと誓っていたり、子どもの成長を見届けたいからもう刑務所に戻りたくないと思って必死に生きている人もいることを知って、みんな

な必死に生きていて、ただその理由が違っただけであることを学んだので、優しく手を差し伸べられる人になりたいと思いました。

京都で起きた放火事件の加害者が病院で治療を受けて、こんなにも優しくされるのは初めてだと最初に話したことに對して、私は複雑な気持ちになりました。確かに何人もの罪なき人まで殺害したことは絶対に許されることではないけれど、最初に発した言葉がそれってあまりにも切ないなって思います。五十嵐さんが大切な方に、自分がやったことは絶対に忘れてはいけないけれど、幸せになってね、と声をかけられて嬉しかったとおっしゃっていて、そんな風に言われる元受刑者が増えて、社会復帰して、刑務所生活に戻ってしまう方が少なくなるといういな、と思いました。

しかし、もしも私の大切な人が犯罪に巻き込まれてトラウマでずっと苦しんでいたら、出刑後でも加害者が不幸になってほしいとは思わないですが幸せにはなってほしくないなと感じて難しいと思いました。

☆

刑務所の中での不完全な医療には衝撃を受けた。五十嵐さんの「受刑者でも社会の人と

同等の医療を受けるべきだ」という言葉を重く受け止めなければならぬ。受刑者が、倒れた受刑者を助けようと人工呼吸した：という話からも、社会に出る前の刑務所内で、助けようとした受刑者が処罰の対象になったとなれば、社会に出てから人を助けることを躊躇してしまうようになる可能性もある。

このような話を私のように刑務所について無知の人にもっと伝えて、刑務所の対応を考え直さなければならぬと思った。

日本は海外に比べて、「助けて」という言葉をかけにくい社会であるし、声をかけることに勇気がある社会だと思う。言葉をかけにくい社会になったのは、人に頼ることは恥ずかしいと感じてしまう日本人の特性かもしれない。

私もそのようなことをよく感じる。大学の授業で分からなかった部分がある時に「ここ、先生が何と言っていたか教えてほしい」と聞くことが恥ずかしいと感じるし、あなたの時間を奪ってしまったって申し訳ないとも思ってしまう。そう考えてしまう自分の性格も好きではないが、もっと頼り・頼られることが当たり前に受け入れられる社会・世界になれば良いのにと強く感じた。

支えになったのは手紙だとおっしゃっていたが、やはり直筆の手紙はより、気持ちを伝えられるものなのだと思った。大学生になり

ペンを持って作業をすることが少なくなってしまうが、人が書く字の重たさを再確認した。

将来歯科医師になる身として、現状の刑務所内の不自由さ（特に医療においての）を知ることができて心から良かった。五十嵐先生の話聞いた私達は「目の前にいる患者さんがどんな背景を持った人であっても皆同等に接すること」をいつまでも忘れずに居なければいけない。その考えが少しずつ広がればいいなと思うし、私達はそれを広げる役目があると感じた。

☆

目の前の人を愛する事は難しいと言う言葉に心を動かされた。一度刑務所に入ったと言うのに、とても心が洗浄されていて驚いた。いい話が多くて、正直まとめて感想することができない。

しかし、リアルな刑務所の話を聞いて少し怖かった気持ちもあります。

☆

受刑者の方のお話を聞ける機会はとっても貴重なので、嬉しかった。刑務所で、受験者が倒れた受刑者の人工呼吸をしたら、処罰を与えられたり、救急車を呼ぶまでに上の機関の許可が必要なために、救急車が来るまで四十分もかかったり、頭痛を訴えている受刑者を三時間も放置して、半身不随になってしまったりと、そんなことがあっていいのかわく話が多かった。

刑務所には運動会があること、行進をみれば刑務所にいたかどうか分かるとおっしゃっていて、面白いなと思った。甘い食べ物は基本的に出ないと聞き、私は甘いものが大好きなのでつらいなと感じた。

☆

もちろん犯罪をってしまったことは悪いことですが、それによって差別が起きることは別問題であると分かりました。特に医療は平等に行われるべきことであるのにカルテがきちんと記されていなかったことは許されないうことだと思いました。安楽死など、そういった医療の差別は問題視されることが多いですが、刑務所での差別はあまり取り上げられていないのを見たり聞いたりしたことがありませんでした。そこから刑務所での差別を問題と思わない人が一定数いるのではないかと感

じました。もしそうであれば社会復帰して医療にかかる時も差別を受ける可能性もあると思います。そして、もし自分が差別を受けたとしたらと思うと本当に苦しい気持ちになりました。

自分が歯科医師になったときは差別することなく平等に接していこうと改めて感じましたし、患者さんの心にも寄り添えるような歯科医師になりたいと思いました。

☆

刑務所が犯罪者の養成所になっているというのを聞いて驚いた。刑務所は受刑者を更生させる場所だと思っていたので、養成所になっているというのを聞いて、養成所であることを変えることは出来ないのかと思いました。

犯罪を起こした人には理由があって起こしてしまうという話で、実際に犯罪を起こしてはいないがその直前までいってしまった人は沢山いるだろうと思った。

受刑者が運動会で倒れてしまったて他の受刑者が人工呼吸をしただけであるのに悪いこととして見られるのはなぜなのかとても疑問に思った。救急車も受刑者は直接呼ぶことが出来ず、放置されてしまうなど、命であること

はかわりないのに何故そこまで差別を受けなければならぬのか私には分からなかった。

刑務所では全てが許可制であったため社会に出てからも許可を取るくせが抜けないと仰っていたが、私たちの生活ではありえないことなので聞いて驚いた。

☆

刑務所は犯罪者の養成所になってしまっていると聞きとても驚きました。刑務所では指示に従うことが基本で、刑務所ではトイレに行くだけで許可が必要であると聞き、私には耐えられないなと思いました。

また、なぜ再犯が多いのか気になっていましたが、その理由は社会に居場所がないからであると聞き、自分たちもすべきことがあるなと感じました。自分の関わり方によって目の前の受刑者の方の考えや行動が変わることも知ったので、その人の罪を許すのは難しいですが、手を差し伸べたいなと思いました。元受刑者の方のお話はなかなか聞けることが少ないので、とても有意義な時間であり、考えさせられる講義でした。

☆

私は、高校生の時は凄く破天荒な性格で、もちろん親には反抗的な態度を取っていました。高校の先生にもとても迷惑をかけました。私は態度が悪い生徒でしたが、それでも犯罪をする程の反抗期でなくて良かったです。体験談を聞くと刑務所内での暮らしは本当に息苦しそうでした。

五十嵐さんもキリスト教で新たに生まれ変わる事が出来たと言っていました。実は、私も祖母の影響からキリスト教の信者になり、今は自分の周りにいる人に優しさを持っていて接しています。今では本当に変わったねと昔を知る人から良く言われます。

宗教を信じるかどうかは自由だと思いますが、神を信じる事で人の性格を百八十度変えることは本当にあると五十嵐さんのエピソードを聞いて確信しました。

☆

今回の講義を聴いて、刑務所の中は想像よりも恐ろしい場所だと感じた。五十嵐さんがおっしゃっていた運動会の話や頭痛の方の話はいくら刑務所内でもあり得ないことだと思った。その一方で、刑務所内で運動会などが行われていることは、予想外だった。いくら働いていても、最大で一桁の給料しかもら

えない、ご飯は冷めているなど、非常に差別的な扱いを受けているとわかった。

今回の講義を聴くまで、自分の中で受刑者は怖くてあまり関わりたくない存在と思ってしまうていた。しかし、五十嵐さんのように更生し、人々に感謝し、自分の罪としっかりと向き合っている姿を見て、考えを改めた。自分の決めたことは必ず実行することは、簡単なことではないと思う。五十嵐さんがおっしゃっていた受刑者が罪を犯してしまったのは、必ず訳があるということに妙に納得した。一方的に受刑者が悪いと断定し、犯人扱いするのでなく、受刑者自身の想いを感じること大切だと思った。

今日の講義は自分にとって、本当に貴重な体験だった。また、包み隠さず自分について語ってくれた五十嵐さんに感謝しています。

☆

本日の講義を受講し、赦しについて考えてみました。

赦すことは、本当に難しいことだと思えます。赦すことは、結ぶことと似ています。まして自らが傷を負い、過ちを犯した相手を赦すことは、そう簡単にできる事ではないと思えます。それに私たちが目に見える「事実」は、

えてして丁か半、白か黒かで判断されてしまうことがほとんどです。ですから、今日のお話をきいて、その裏側、もっと奥にある「真実」を見られずとも、思いやれる人間になりたいと思えました。点でなく線で考えられる人に。過ちを犯す（ここでは犯罪として）、犯してしまったその背景を。

そして、私たち生徒は、何不自由のない生活と注がれた愛を顧みなければならぬと感じました。今の私に犯罪を犯してしまった人をリアルな視点で赦せる器があるかは、わかりません。しかし奥にある何か、愛をもって思いやる心が持てるよう努めていきたいです。

本日は、貴重な授業を誠にありがとうございました。私も幼児洗礼をうけたクリスチャンです。暗いと不平をいうよりも、進んで明かりをつけられるよう歩んでいきたいです。私の好きなマザーテレサの言葉を選ばせていただきました。

☆

本日は元受刑者である五十嵐さんのお話を伺うという貴重な経験をさせていただき、大変感謝しております。本日の講義を通して刑

務所の中の構造・システムを知り、さらには犯罪の行為のみに注目するのではなく、きちんと背景まで知る必要があるということに改めて気づかされました。

また、受刑者の方々に対する医療が法務省の管轄下であり、一般で行われている医療は厚労省の管轄下であるということ。そしてその管轄の違いから各医療分野の患者に対する対応方法が大きく異なっていることを初めて知り、医療における平等性において、この状況は公正さに欠けているのではないかと思われました。そのため、この問題については真剣に国で検討していく必要があると考えました。

沢山お話ししてくださった中でも特に一番衝撃だったのは、受刑者の運動会の話です。倒れた受刑者の応急処置が懲罰の対象になってしまうということ、救急車を呼ぶのに管理者の許可が必要で、救急隊が受刑者用の運動場に入ってくるまでに四十分以上かかること。これらは私たちの生活ではありえない状況であり、この話を聞いて確実に一般の人と受刑者の医療体制には大きな差があると感じました。

一方で、刑務官の匙加減で受刑者の態度が悪いものと判断された場合に罪が重くなってしまうことがあり、さらには受刑者の全ての行動には許可が必要であることから、受刑者自身が自由に考えて選択する機会が奪われ

てしまっているという事実も初めて知りました。私はそういったことがある以上、「明るみに出ていないだけで、刑務官による受刑者へのパワハラのようなものがあってもおかしくはないのかもしれない」とも思いました。

したがって私は犯罪をするのはもちろん良くないことであるが、一人の人間として受刑者にも一般の人たちが受けるような速さで医療を受けられるようにすることの重要性と、受刑者が刑務官の許可なく「体調不良である、助けてほしい」と言える環境づくりの必要性。刑務官の受刑者に対する態度の統一、刑務所内でも仕事や行動などを受刑者が自ら選択する機会を定期的に与えるということを検討するべきである、と考え、受刑者側や刑務所に出入りしている人の両方の立場を知ったうえで活躍されている五十嵐さんのお話を伺えたことで、今まで以上に視野が広がりました。

—つづく—



きりさん

看護師 中谷先生による

## 健康相談窓口

胃ろう

三月は卒業シーズンですね。今年も皆さんの心に桜が咲きますように。

私も、三月末で現在所属先の岐阜保健大学を退職することになりました。三年間、看護学部の教員として教鞭をとって来ましたが、新しいことにチャレンジするため、他大学へ移籍致します。また、少しずつその内容についてもお伝えしていきたいと思えます。

今月号では、私の母親について少し語ります。その上でその治療に関して、皆様にも知って頂けたらと思います。直接皆様の健康には関与する内容ではないかと思いますが、知識として理解して頂ければ有難いです。

私の母は、現在七十三歳で、脳出血を六十歳前半から幾度となく繰り返し、入院も頻回です。脳出血の箇所は、細かい血管100

箇所以上に渡っています。幸い、生命に直結する大きな血管でないことが唯一の救いでもあります。

後遺症として、言語障害、右半身麻痺、脳血管性認知症、痙攣発作があります。半年前までは何とか、つたい歩きで在宅生活を送っていましたが、痙攣発作が頻回となり、また入院生活を送っています。この数週間は痙攣発作が治まらず、意識レベルも悪い状態です。介護度は、要介護5（重度で介護が最大限必要）と認定されています。

先日、病院の医師からお話がありました。「痙攣発作について、薬を内服できない状態でコントロールできないため、意識レベルも悪く、食事水分も取れない状態のため、このままでは生命の危機にも関わります」と。そのため、治療の一環として、「胃ろう造設」の話が出ました。

皆さん、「胃ろう」はご存知でしょうか？

胃ろうとは、胃に小さな孔（あな）を開けて、お腹にカテーテル（管）を取り付けることで、直接栄養を摂取する栄養補助方法のことです。

本来ならば、口から食事を摂りますが、それが難しい人や、むせ込んでしまい肺炎を起してしまう（誤嚥性肺炎）人に対して行う治療になります。

近年、この胃ろう造設によって、「延命治療」（生きながらえる事）に対する問題が出てきています。患者自身の意思に反して造設されてしまうことなどもまた、問題視されています。

しかしながら、胃ろうを造設することを治療として選択する時というのは、ある意味、緊急性が求められていることも多いのが現状です。また、医学的知識を一般の方は十分持ち合わせていないこともあり、選択できないというのが、家族の正直な気持ちです。

これから先、皆さんが社会に戻られた時、ご家族の方が高齢となり、この胃ろうに関してや、介護に関しても考えていかねばならないときが来るかも知れません。そのように、自身のこととして考える機会にして頂けたらと思います。

胃ろうを造る手術をPEG（ペグ）といい、内視鏡（胃カメラ）を用いて行います。手術の時間は約十五〜三十分程です。胃ろうの他の栄養補給方法として、鼻から胃までカテーテルを通して栄養を摂取する経鼻胃管栄養、血管に直接栄養を注入する経静脈栄養があります。

胃ろうは、経鼻胃管栄養などと比べて、患者自身に負担が少なく、看護・介護側にも負担が少ない点や、胃ろう中にもリハビリが行いやすい、などの特徴があります。



胃ろうの様子

五十嵐亜利沙（妻）による

## ラブリーDAYS

去年、父が亡くなった時に、受刑者Kさんがお花代を送ってきてくれました。

それに感動した母がお礼のお手紙を書きました。そしてKさんのために毎日お祈りしているとのことでした。

素敵な繋がりだと思いました。

## 回復プログラム 実践

- 「回復プログラム係」宛にお手紙で回答を送って頂ければ、スタッフより個別に返信致します。  
事務局やフランススコ等、他のお手紙との同封はせず、個別に「回復プログラム係」宛に送付して下さいますようお願い致します。

### 【第十一回目】

○社会に出るために、人間力を高め強める。

- 1) 人間とは何なのか。あなたはごどう思ひますか。
  - ・人は有限存在である…場所と時代、時間に制限された存在である。  
その時代、その社会、その家庭環境、状況の中で生まれる。  
生まれ→成長→成熟→責任を負い→生き甲斐を持つ→病み→老い→死ぬ。
  - ・人は身体、精神、社会、霊性（宗教）の四次元を生きる存在である。
- 2) 人が人間らしい者になるために、必要なものは何ですか。

愛情…それは何ですか。

  - ・人は受け入れられ、肯定され、認められ、愛され、信頼されることで育つ存在である。
  - ・人は愛されたい願望をもち、愛を受けると自分に自信を持ち、他を愛するものとなる。
  - ・人は否定され、無視され、侮辱され、認められない場合、生きる力を失うか心が歪む。
- 3) 人の存在基盤は何ですか。

何を得るために人は働くのですか。

  - ・物、財産（金・土地・種々の所有物）、仕事、地位、役割、名誉、理想、神仏、…
- 4) 人が生きるために使う力は何ですか。

欲望…それは人を生かしますか、殺しますか。

  - ・生きる力の源…欲・所有・競争…優劣、差異、対立、批判、拒絶、戦争、死、…
- 5) 人が人として生きる為の原理は何ですか。
  - ・命の三原理…「生きている」「生かされる」「つながる」
- 6) 人格的な成長と成熟を目指すために、何が必要ですか。
  - ・人格的癒し、学び、成長への意欲、…



★このコーナーは、絵画の模写を体験するもので、絵画技法の習得を目指すものではありません。模写（アレンジOK）の投稿を募集中です。  
★当技法についての詳細を知りたい方、また、作品発表等について考えている方は、規定が設けられているため必ずご相談下さい。

## 菜の花と子供

※昨年末の引越しに伴い、十二月号から二月号までお休みさせて頂き、転居先での生活も、だいぶ落ち着きました。どうも有難うございました。三月号より再開させて頂きます。絵を描いて下さった方などいらっしゃるかもしれませんが、感想等々頂けたら嬉しいです。これからも、皆様どうぞよろしくお願い致します。

### 【描き方のコツ】

私が前に住んでいたアパートの近くに、畑があって、沢山の菜の花が咲いていました。葉や茎はしっかりと厚みもありますが、黄色い花は、小さくて可愛らしく、春を感じさせる色だなと思います。子供の頃は、母がよく菜の花のおひたしを作ってくれたので、ご飯と一緒に食べていました。皆さんは、菜の花の思い出ありますか？

菜の花は、細長い丸を描くように、四つほどの花弁を描いて下さい。花と花が重なり合うように、円状に花を沢山描いたら、中心に小さな丸も描きましょう。花を支える茎は少し太めに描き、枝分かれする茎は細めに描きます。葉っぱは、波打つように細長く描き、子供の頭の上には、菜の花のみを描いて、お花の冠にしましょう。

形は、ハンドペイントの良さを生かして、不揃いでも、何でも構いません。見本の絵と全く同じではなく、アレンジして、楽しく描いて下さい。

絵は、自分の中のイメージを表現する事が大切なので、自由に、楽しみながら、表現して下さい。

文通をされている方は、見本の絵を色々アレンジして、便箋や封筒に描くと、楽しく可愛いアクセントになりますので、ぜひお試し下さいね。

### 【補足】

ポタニカルファイナート技法とパステルアートのコラボレーションで描いていますが、ボールペンや鉛筆等、入手し易い文具で描いて下さって結構です。

ボールペンは、PILOTの細いペン等が推奨されていますが、描きやすいと感じるもので良いと思います。鉛筆は、形が見やすいように、B以上のものので濃く描くと、質感も柔らかく、描きやすいです。HBやH等ですと、固い質感の為、描きにくいかと思えます。

## 編集後記 by 編集局

今月号もお読み下さり有難うございます！

実は編集局（といつつ総勢1名）もついにコロナに罹ってしまい、発送作業が1週間以上延びてしまいました…どこで感染したのか心当たりがなく、感染力の強さにびっくりです。作業の延期にも柔軟に対応して下さった発送ボランティアの皆さんに感謝です！

10日間の自宅療養期間中は家で大人しくしており、お陰様で(?)、たより製作に集中することができました！皆様もお気をつけて…！

※プリズムアート倶楽部が再開となりました。ぜひ描いてみて下さいね！

ご支援 誠に有難うございます！

〈 2022年2月1日～2月28日 〉

**寄付金：255,000円**

※今号発行時点で、寄付金として集計した分です(愛のプリズム募金を含む)。

## 行事予定

▼3/17 19:00～  
Inter7会議 (ZOOMにて)

▼3/22 15:00～  
新プロジェクト会議 (ZOOMにて)

## お知らせ

○フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用されない方は、会費の分納が可能です。

なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう、何卒お願い致します。

○下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたい、宜しくお願い致します。

- 突然たよりが送られなくなった。
- 刑期(出所日)が変更になった。
- 入会申込書もしくは会費を送った後、2か月経っても、マザーハウスから何も届かない。
- 聖書(寄贈された中古のものです)の送付を希望する(送料800円分が必要です)。

○会費やフランシスコの費用を切手で納める場合(84円以上の切手のみ使用可)は、1枚につき現金交換手数料5円がかかります。  
(例) 100円切手×5枚の場合：500円－手数料5円×5枚分＝受領額475円

○絵画を獄中POSTシリーズへ応募する際は、その旨を都度、ご明記願います(明記無い場合には、たよりでのみ掲載となります)。

○たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります(受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります)ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましても、都度「掲載不可」と明記して頂きたい、宜しくお願い致します。

## マリアコーヒー (ルワンダ・コーヒー)

♪製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria\_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 粉200g または 豆200g …… 972円 (税込)

カフェドリップ10g (1回分) …… 108円 (税込)



### ☆継続して購入・販売してくださっている皆さま (順不同) ☆

カトリック茅ヶ崎教会/カトリック北仙台教会/カトリック所沢教会/カトリック浜松教会/カトリック東山教会/カトリック布池教会/カトリック菊名教会/カトリック中和田教会/カトリック新子安教会/カトリック碑文谷教会/カトリック桃山教会 (平和環境部)/カトリック東仙台教会/カトリック春日部教会/カトリック足利教会/カトリック神田教会/カトリック太田教会/カトリック大分教会/カトリック西千葉教会/カトリック下井草教会/カトリック新潟教会/カトリック多治見教会/カトリック芦屋教会/カトリック鷺ノ宮教会/カトリック松戸教会/ドン・ボスコ社/クリスト・ロア宣教修道女会/日本カトリック神学院/聖母訪問会



### ☆ルワンダの祈り☆

ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

## マリアの紅茶

♪オーガニックの純スリランカ産のセイロンティーです。

FAX: 03-6659-5270

メール: maria\_coffee@motherhouse-jp.org (QR →)

価格: 50g (2g入り25袋) …… 756円 (税込)

オンラインでのご注文: <https://mariacoffee.shop/> (QR ↓)



## マザーハウスたより 22'03月号

発行日: 2022年3月15日 発行責任者: 五十嵐 弘志  
〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-3F NPO法人マザーハウス



↑ 理事長 Facebook ↑ 理事長奥さんブログ ↑ MLP 問合せ

## ラウレンシオ (便利屋業)

♪元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、掃除などをさせていただきます。お見積りは無料です。

(2020年12月より、株式会社ルツに移行しました。)

TEL: 03-6659-2110 / FAX: 03-6659-2180

メール: info@ruth-llc.co.jp

## 獄中POSTシリーズ

♪獄中ボランティアが描いた絵画類、ポストカード等に印刷する企画です。

メール: motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org (QR ↑)

価格: ポストカード …… 1枚300円 / 3枚800円

シール …… 1シート800円

ホームページ: <https://motherhouse-jp.org/project/goku-pos/> (QR ↓)

☆詳細はホームページのカタログをご参照下さい。

☆収益は特に、身寄りのない方の住宅支援に充てられます。



## 古本募金 (きしゃぼん)

♪書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先: 〒358-0053 埼玉県入間市仏子916

マザーハウス きしゃぼん係

(マザーハウス事務所に送らないようお願いください)

TEL: 0120-29-7000

## お問合せ

いつも有難うございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL: 03-6659-5260

メール: info@motherhouse-jp.org (QR →)

ホームページ: 「NPO マザーハウス」でご検索ください。(QR ↓)



## ご支援

☆正会員 (一口5000円/年) ☆賛助会員 (一口3000円)

☆社会復帰支援 (ご寄付) を随時募集しております。

→振込口座名:

特定非営利活動法人 マザーハウス 【トクヒ】マザーハウス

郵便振替口座 … 00170-0-586722

みずほ銀行 … 新宿支店 普通口座 2376980

☆洋服等の物資の送付先:

〒130-0024 東京都墨田区菊川1-16-18-1F マザーハウス

(TEL: 03-6659-2110)